

# 第6学年 社会科学学習指導案

平成26年6月12日(木) 第5時限 6年教室  
指導者 炭山 和也

## 1 単元 「奈良時代を救え！ ～東大寺の大仏は本当に造るべきなのだろうか～」

### 2 単元目標

- (1)聖武天皇の大仏づくりや奈良時代の社会状況について、積極的に追究活動に取り組んだり、考えたことを発表したりすることができる。(関心・意欲・態度)
- (2)奈良時代の時代背景を認識し、それをもとに聖武天皇の大仏づくりの是非を考えたり、二度再建された意義を考えたりすることで、よりよい社会を築く大切さに気づくことができる。(思考・判断・表現)
- (3)大仏づくりの状況や奈良時代の時代背景について、学習したことを分かりやすくまとめたり、仲間に伝えたりすることができる。(技能)
- (4)聖武天皇や当時の農民、再建に携わった人など、大仏づくりにかかわった人々がよりよい社会を目指すために様々な行動をとっていたということを理解することができる。(知識・理解)

### 3 指導構想

本学級の児童は、社会科の授業に意欲的である。5年生の「日本の農業」の学習では、田原市や日本の農業の特色や工夫について、積極的に調べ、その成果を発表することができた。また、TPP(環太平洋経済連携協定)に問題意識をもち、日本の農業が今後より良く発展していくための方法を考えるなど、社会と自分とのつながりを意識して学習に取り組むことができた。しかし、6年生の歴史学習においては、過去のできごとを学習するため、自分とのつながりを見出しにくく、受け身的な学習になってしまう場面が多い。聖徳太子の学習では、調べ学習には積極的に取り組み、調べたことを発表することはできても、「聖徳太子がどのような思いをもち、どのような社会を築こうとしていたのか。その社会のあり方について自分はどう思うか。」という所までは意識が及ばなかった。これからの社会を担っていく子どもたちには、今よりもよい社会を築きたいという思いをもってほしい。そのためには、よりよい社会を築こうとした先人の思いや行動を通して、社会に積極的にかかわっていくことの価値に気づき、社会的事象に対して、自分ならどう考えるか、自分ならどう行動するかという思考力や判断力をもつことが大切である。

本単元では、奈良時代の東大寺大仏造りを取り上げる。この頃は、伝染病(天然痘)の流行や天災の多発、貴族の権力争いや反乱が相次ぐなど、社会が非常に不安定だった時代である。また、唐が勢力をもち、白村江の戦いで日本は敗れるなど、唐の脅威から中央集権国家を目指した時代でもある。そして、農民は万葉集の『貧窮問答歌』に代表されるように、重い税に苦しみ、貧しい生活を余儀なくされていた時代でもある。そのような時代にあつて聖武天皇は、仏教の力で国を救いたいという思いをもち、大仏造りを決心する。聖武天皇なりに、よりよい社会を目指しての行動ではあるが、大仏造りには多くの資源や農民の力を必要とするため、その行動は賛否が分かれる所である。また、東大寺の大仏は二度にわたって焼失したが、すぐに国家的規模で再建が行われ、多くの人々が手を貸していることが分かっている。そこで、東大寺の大仏造りの是非を考えたり、二度再建されてきた意義を考えたりすることで、大仏造りにかかわった人々が、よりよい社会を築こうと努力していたことを知り、社会に積極的にかかわっていくことの価値に気づかせたいと考え、本単元を設定した。

単元の導入「歴史事象との出会い」の場面では、修学旅行で東大寺に行くことを紹介し、そこにある大仏の大きさを実感させるために、実物大の大仏の顔や全身をプロジェクターで写し、自分との大きさを比べたり、校舎との大きさを比べたりする。そして、大仏が誰によって、どうやって造られたかを調べていくうちに、なぜ大仏が造られたのかという疑問につなげる。そこで、聖武天皇の『大仏造立の詔』を提示し、聖武天皇が大仏を造ろうと考えた理由を読み取る。ここでは、聖武天皇がよりよい社会を築こうという気持ちをもっていただけに気づかせるために、「人民を救う」「みんなの幸せを願う」という表現に注目させる。そして、人民を救わなければならないような時代だったのかという問題意識をもたせ、当時の世の中の様子の学習へとつなげていきたい。

「時代背景をとらえる」場面では、当時の社会状況を確実におさえる場とする。はじめに、聖武天皇在位の天平年間に災害や病気が相次いだ事実を知るために、『続日本紀』をやさしくまとめた年表を提示し、どんなことがあったか読み取らせる。病気については、今のように医療が発達していないため、治らずに死に至ることが多かったという事実を伝え、災害についても自然の怒りというような感覚であったことを伝え、今の時代との相違を感じさせたい。貴族についての学習では、系図を用いて人間関係を整理し、権力争いをしてきたことや反乱があったことを押さえる。唐の様子の学習では、アジアの地図を提示し、唐と日本の領土を比べることで、唐の強大さを実感させる。663年の白村江の戦いで日本が敗れたことで、日本はどんな気持ちになったかを考えさせることで、唐に負けない強い国づくり、そのためにはリーダーを中心とした国づくりが必要だということに気づかせ、天皇中心の中央集権国家づくりの必然性をとらえさせたい。農民の様子を知る学習では、はじめに、当時の農民が貧しく、税によって苦しい生活を強いられていたことを感じさせるために、『貧窮問答歌』を提示する。その上で、奈良時代の税について学習する。租・調・庸・雑徭などという基本的な税制度を理解させつつ、地元の様子にも目を向けさせるために、地域の特産物を納めた「調」に着目させ、渥美の農民が「調」として何を納めていたのか疑問に思わせる。そして、平城京から発掘された木簡の資料を提示し、渥美の農民が塩を納めてい

たことを読み取らせる。木簡の記述には「塩一斗」とあるため、塩一斗を作り出すことの大変さやそれを都まで運ぶことの大変さを感じさせ、当時の農民の苦労を味わせるために、実際に塩作りを行う。体験をすることで、農民の大変さを実感することができるだろうと考える。これらの学習を通じて、奈良時代の時代背景を確実に捉えさせた上で、そのような時代にあつて、大仏は本当に造るべきなのだろうかという学習課題を提示し、考えをもたせていきたい。

「事象を価値判断し、よりよい社会のあり方を考える」場面では、大仏造りの是非を話し合うことで、奈良時代のよりよい社会のあり方を考えさせる場とする。「造るべき」と考える児童には、仏教的な面、天皇中心の政治の面から、意見を期待したいし、「造るべきではない」と考える児童には、農民の負担という面からの意見を期待したい。また、造るべきでないとするなら、他にどのような方法をとれば、この時代をより良くすることができたのかを考えさせる。児童にとっては、社会参画に向けてのシミュレーションともいえる活動である。ここでは、根拠の甘い考えが出ることも予想されるため、その案が当時の時代にあつて、妥当で本当に実現可能かどうかについても、議論を深められるようにしたい。ここでは大仏造りの是非を中心に、多面的、多角的な視点から奈良時代のよりよい社会のあり方について考えさせる場としたい。

「社会参画への気持ちを高める」場面では、東大寺の大仏が時代を経た後でも、価値あるものとして大切にされていることに気づかせるために、東大寺の大仏の再建の意義を考える。ここでは、再建が国家的プロジェクトで行われたこと、多くの人々が力を貸したことに着目させ、時代が変わっても大仏が大切にされているという事実気づかせたい。そして学習の最後に、多くの人々の思いで残されてきた大仏を、これからも大切にしていこうとする気持ちを高めるために、大仏造りにかかわった人たちへ手紙を書く。ここでは、大仏造りに携わった人々が、よりよい社会を築くために努力してきたことに共感し、社会に積極的にかかわっていくことの価値を認識し、自分もそのように行動しようとする気持ちが表れることを期待したい。

本単元を通じて、その時代の背景を捉えながら、仲間との話し合いを通じて、よりよい社会を築くために、自分ならどう考え、どう行動するかを考えて判断できる児童を育てていきたい。

児童の学習活動と教師の支援・評価

東大寺の大仏を見てみよう。①

- 実物大の東大寺の大仏を見て、大きさを体感する。①
  - ・顔だけでも、こんなに大きいんだね。・体育館におさまらないよ。・こんなに大きなもの、どうやって作ったのかな。・なんで大仏はつくられたのかな。
  - ☆ 東大寺の大仏の大きさを実感させるために、プロジェクターで大仏の顔や全身を映し、自分との大きさを比較したり、体育館との大きさを比較したりする。
  - ◇ 大仏の大きさと、自分や校舎との大きさを、積極的に比べようとする学習に取り組みることができる。

東大寺の大仏はどうやって造られたのだろう。②③

- 東大寺の大仏がどうやって造られたかを調べる。②③
  - ・聖武天皇の命令で造らせたんだね。・当時の人口の半分が参加したんだね。・完成まで10年もかかったんだ。・一段ずつ作っていくなんで面白いな。
  - ・日本中から材料が集められたんだね。・実際に大仏造りに参加した人々の苦労が伝わってくる。・なんでこんなに大い大仏を造ったのかな。
  - ☆ 大仏づくりの方法や関連する情報を知るために、子どもの疑問を解決するために資料や教科書を調べたことを出し合う。
  - ◇ 東大寺の大仏の造り方や基本情報について、資料を使って積極的に調べることができる。

聖武天皇はなぜ大仏を造ろうと考えたのだろう。④

- 『大仏造立の詔』から、聖武天皇が大仏を造ろうと考えた理由を調べる。④
  - ・「人民を救う」と書いてあるから、みんなのために造ろうとしているのかもしれない。大仏の力でみんなを助けようとしているみたいだよ。・みんなのことを考える聖武天皇は立派だなと思いました。・仏の力(仏教)ってどうなのかな。・「人民を救う」ってことは、この時代は苦しいことでもあったのかな。
  - ☆ 聖武天皇なりに、よりよい世の中を築こうとしていたことに共感させるために、「人民を救う」「みんなの幸せ」という表現に着目させる。
  - ☆ 当時の社会が不安定であったことへ意識を向かせるために、「人民を救う」という表現から、どんなことを救おうとしているのか予想させる。
  - ◇ 『大仏造立の詔』から、聖武天皇が大仏を造ろうと考えた理由を読み取るることができる。

奈良時代の世の中の様子を知ろう。⑤～⑧

- 大仏造りが行われた頃の世の中の様子を学習する。⑤⑥⑦⑧
 

<疫病の流行> ・ほとんども治らない・致死率高い。 ・藤原四兄弟死去	<天災の発生> ・天平大地震・凶作、ききん・水害	<貴族の内乱・反乱> ・長屋王の変 ・藤原広嗣の乱	<奈良時代の仏教> ・貴族向け ・国分寺、国分尼寺 ・行基の布教	<唐の脅威> ・大帝国 ・かつて日本も敗れ	<都の移動> ・4回の遷都 ・不安定な政情を何とかした
--	-----------------------------	---------------------------------	---	-----------------------------	-----------------------------------

  - ・聖武天皇の頃は地震や災害が多かったんだね。・天然痘はとてつもなく怖い病気やききんで死ぬ人がいてかわいそう。・貴族はみんな自分勝手だ。
  - ・唐は国がまとまっているから、強いんだね。・都を何度もうつらして困っていたんだ。・この状況を大仏造りで何とかしようと考えたんだね。
  - ☆ 聖武天皇の天平年間に災害や病気が相次いだ事実を知るために、『新日本書』を詳しくまとめた年表を提示する。
  - ☆ それぞれの事象のイメージを持たせやすくするために、地図や挿絵などの資料をもとに学習に取り組みさせる。

奈良時代の農民の様子を知ろう。⑨～⑭

- 『貧窮問答歌』から、奈良時代の農民の生活の様子を想像する。⑨
  - ・当時の農民は、とても貧しい生活をしてたんだね。・食べる物もなくてかわいそう。・「鞭を持った里長の呼ぶ声」ってどういうことかな。
  - ☆ 当時の税の存在に気づかせるために、「鞭を持った里長」という表現に着目させる。
  - ◇ 『貧窮問答歌』を通して、当時の農民が貧しく、税によって苦しい生活を送っていたことを感じ取ることができる。
- 奈良時代の農民の税について学習する。⑩
  - ・いろいろな税があって、納めるのが大変。・都まで運ぶのも大変だし、食料も自分で用意するのはかわいそう。・「調」で漚美の人々は何を納めていたのかな。
  - ☆ 奈良時代の漚美の様子に目を向けさせるために、各地の特産物を調べる「調」に着目させる。◇ 租・調・庸を基本とする税のしくみを理解することができる。
- 漚美の農民が、「調」として何を納めていたのか調べる。⑪
  - ・調塩一斗と書いてあるよ。塩を納めていたんだね。・一斗の塩ってどれくらいあるんだろう。・当時、塩はどのように作っていたのかな。
  - ☆ 調として塩を納めていたことに気づかせるために、平城京で発掘された木簡を資料として提示する。
  - ☆ 一斗の塩がどれくらいあるのか感じさせるために、実際に一斗樽を用いる。◇ 漚美の人々が奈良時代に塩を納めていたことを読み取ることができる。
- 当時の方法で、塩づくり・塩運びを体験する。⑫⑬
  - ・海水を煮詰めればよいと思っていたけど、これだけしかできないなんてびっくりした。・一斗の塩を作るには、とても苦労するということがわかった。
  - ・これを都まで運んでいくことも大変だと思った。・天皇や貴族の暮らしを、全国の農民たちが支えていたってことだね。
  - ☆ 当時の農民の苦勞を感じさせるために、一斗の塩を作り出すことの大変さを体験したり、それを都まで運んでいくことの大変さを考えたりする。
  - ☆ 当時の漚美の塩づくりの方法や目的を正しく理解させるために、田原市教育委員会、文化生涯学習課の増山さんをゲストティーチャーとして招聘し、教えを請う。
  - ◇ 塩づくりを通して、当時の農民の苦勞の様子を感じ取ることができる。
- 奈良時代が、聖武天皇や農民にとって、どんな時代であったか、自分の考えをまとめる。⑭
 

<聖武天皇にとって> ・社会が不安定な時代だったので救いたい。・仏教を広めたい ・政治が乱れていたのが立て直したい。・天皇中心の国にしたい。	<農民にとって> ・貧しい生活を少しでも良くしたい。・病気ににかからずに安心して生活したい。 ・これ以上、災害が起こらないでほしい。
--	--

  - ☆ 奈良時代に対する認識を整理させるために、聖武天皇と農民の立場から考える。◇ 当時の世の中の様子をもとに、自分の考えをもつことができる。

東大寺の大仏は、本当に造るべきなのだろうか。⑮～⑱

- 東大寺の大仏を造るべきかどうかを考え、話し合う。⑮⑯⑰
 

<造るべき> ・苦しんでいる人の心が軽くなると思う。・もし造らなかつたら不幸が続くかも。・仏教を広めることができると思うから。 ・みんなが協力して、国がまとまると思う。	<造るべきではない> ・農民の負担をこれ以上増やすのは気の毒だ。・大仏を造っても、病気や災害はなくなると思う。・お金や材料を、農民のために使った方がよい。・大仏じゃなくても、仏教を広めることはできる。
--	---

  - ☆ よりよい社会のあり方を考えさせるために、「造るべきではない」という見解には、他にどのような方法を取ればいいのかを考えさせておく。
  - ◇ 東大寺の大仏を造るべきかどうか、これまでに学習したことをもとに自分の考えをもち、仲間に伝えることができる。
  - ◇ 話し合いを通じて、奈良時代のよりよい社会のあり方を考えることができる。
- 大仏造りをしないとすれば、他にどのような方法を取ればいいのかを話し合う。⑱
  - ・政治の乱れが収まるように、ルールを定めればよい。・農民の税を減らす利権取り。・病気や災害で苦しむ人を、助ける施設を造ればよい。
  - ☆ 感覚的な考えで終わらないようにするために、当時の社会状況が、その考えが本当に実現できるのかも話し合う。
  - ◇ 話し合いを通じて、奈良時代のよりよい社会のあり方を考えることができる。

なぜ東大寺の大仏は、二度も再建されてきたのだろう。⑲⑳

- 東大寺大仏殿と大仏が2度にわたって再建されてきたことを知り、その理由を調べる。⑲⑳
  - ・国中の人々が協力して復元してきたみたい。・多くの人が寄付をしたみたい。・それだけ、東大寺の大仏が人々に大切にされていたってことじゃないかな。
  - ・大仏が、後の時代でも人々に愛されていたことがすごい。・伊豆湖で火が燃やされたことがびっくり。・伊良湖の人も、再建をのぞんでいたと思う。
  - ☆ 東大寺の大仏が時代を経た後も、価値のあるものとして大切に守られてきたこと、気づかせるために、2度に渡って再建されてきた意味を考える。
  - ☆ 東大寺と地元とのつながりを感じさせるために、漚美祭りの資料や伊良湖の話を調べる。◇ 大仏が、人々にとって価値あるものだと気づくことができる。

大仏造りにかかわった人へ、現代に生きる私たちからメッセージを送ろう。㉑

- 聖武天皇、当時の農民や行基、再建に携わった人など、大仏造りにかかわった人へ手紙を書く。㉑
  - ・国の平和が一番考えて、大仏を造ったことがすごいと思います。今の日本はとても平和です。安心して下さい。(聖武天皇へ)
  - ・みなさんががんばってきたからこそ、大仏が完成して世の中が平和になりました。ぼくたちも、その思いをいつまでも大切にしています。(当時の農民へ)
  - ◇ 大仏づくりに携わった人々が、よりよい社会を築くために努力してきたことに共感し、社会参画への気持ちを高めることができる。

大仏を造った人たちの、「みんなが幸せになってほしい」という願いをむだにしないためにも、わたしたちがよりよい社会をつくっていくことが大切だね。

学びの過程  
歴史  
事象  
社会  
教育  
事象  
社会  
気持

5 本時の学習

(1)ねらい

- 東大寺の大仏を造るべきかどうか、奈良時代の社会状況を踏まえながら、自分の考えを伝えることができる。(思考・判断・表現)
- 話し合いを通して、大仏造りによって奈良時代がよりよい社会になったかどうかを考えることができる。(思考・判断・表現)

(2)仲間とかかわり合う活動のねらいと展開

「歴史を語ろう会」と名づけた学級全体での話し合い活動を行う。考えたことを気兼ねなく話せる雰囲気を作るため、そして、いつでも近くの仲間と相談できるようにするために、机を無くし、イスのみで固まって話し合う。東大寺の大仏を造るべきかどうか、様々な視点から考察することで、多様な価値観にふれさせながら、大仏造りが奈良時代のよりよい社会のあり方にどうつながったかを考える場としたい。

(3)準備

教師・・・フラッシュカード 児童・・・教科書、資料集、ノート、発表用資料

(4)学習過程

○学習活動 ☆支援・留意点 ◇評価

学びの過程	児童の学習活動と教師の支援・評価	
視野を広げる	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <h2 style="margin: 0;">東大寺の大仏は、本当に造るべきなのだろうか。</h2> <p>○ 学習課題について、「歴史を語ろう会」を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>聖武天皇にとって</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天皇の権力を日本中に知らしめることになり、天皇中心の国になっていく</li> <li>・仏教を全国に広めることができる。</li> <li>・みんなで協力して造ることで、政治がまとまる。</li> <li>・不幸がなくなる。</li> <li>・唐との交流がより一層深まる。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大仏を造ったからといって、病気が治ったり、天災がおさまったりするわけではない。</li> <li>・もし世の中が変わらなかつたら、貴族や農民たちの不満がたまる。</li> <li>・仏教をさかんにしても、国は救えないと思う。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>造るべき</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の農民も、行基の布教もあり、仏の力を信じていた人が多かったから。</li> <li>・悩みごとを言える場があったほうがよいし、他に頼れるものはなかった。</li> <li>・大仏造りでは、食事や給料も支給されていたようなので、貧しい農民も救われる。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>農民にとって</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害や病気が収まる保証はない。</li> <li>・ただでさえ苦しい生活をしているのに、その負担をこれ以上増やすのは気の毒だ。</li> <li>・大仏造りは死人が出て危険。</li> <li>・生活が余計に苦しくなる。</li> <li>・お金や資源をたくさん使うから。</li> </ul> </div> </div> <div style="width: 45%; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>造るべきでない</b> </div> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>大仏造りは当時の問題の解決につながるだろうか。</b> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>&lt;当時抱えていた問題&gt;              ①疫病の流行 ②地震などの天災の発生              ③貴族の権力争い・反乱              ④唐の脅威 ⑤農民の貧困</p> </div>	
考えを深める	<p>☆意見を整理するために、天皇にとっての考えなのか、農民にとっての考えなのかを分けて板書する。</p> <p>☆話し合いをぶれないようにするために、友達の見につなげて自分の考えを発言させる。</p> <p>☆友達の見につなげて自分の考えを発信するために、ハンドサインを用いて意思表示をさせる。</p> <p>☆発言に説得力をもたせるために、根拠となる考えやデータを発表用資料として用意しておく。</p> <p>☆中盤では、大仏造りが奈良時代をよりよい社会へと変えていったのか考えさせるために、当時抱えていた問題の一つずつ注目させ、その問題を解決することができたか話し合う。</p> <p>◇大仏を造るべきか、奈良時代の社会状況を踏まえながら、自分の考えを伝えることができる。(発言)</p> <p>◇話し合いを通して、大仏造りによって奈良時代がよりよい社会になったかどうかを考えることができる(発言・授業後の感想)</p>	
<p>大仏造りには、社会をよくする面も、そうでない面もあることがわかった。              奈良時代の社会をよくするために、<u>他にはどんな方法があるのか、もっと考えてみたいな。</u></p>		